

第18回 全国視覚障害者学生柔道大会 大会要項

- 目 的 視覚障害者学生による柔道の普及・発展を図り、視覚障害者の人間形成に資することを目的とする。
- 主 催 NPO法人日本視覚障害者柔道連盟
- 後 援 公益財団法人全日本柔道連盟 全国盲学校長会
全国盲学校体育連盟
- 協 賛 株式会社フジタ(特別協賛スポンサー) ファイザー株式会社
三井住友海上あいおい生命保険株式会社 株式会社イチケン
伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社 株式会社カズマ
株式会社セブン銀行 株式会社太陽ビルマネージメント
新旭電子工業株式会社 医療法人社団順洋会
矢野道場・田仲塾 社会福祉法人春樹会
大塚製薬株式会社
- 日 時 令和 7年 7月 27日(日)
- 場 所 講道館新館 6階【学校道場】
- 参加資格 盲学校(視覚障害特別支援学校)中学部・高等部在籍者、弱視学級(特別支援学校)小学校・中学校または、中学校・高等学校または大学・視覚障害者関係施設等に在籍する学生・生徒で、視覚障害のある者。
- 日 程
【 7月 26日(土)】
11:30~12:00 受付(講道館新館4階:受付)
12:00~14:00 練習(6階:学校道場)
13:30~14:00 予備計量 男・女(6階:学校道場控室)
14:00~14:20 本計量 男・女(6階:学校道場控室)
14:30~14:45 抽選(6階:学校道場)
17:00~ 宿舎へ移動
- *練習では、「礼法」、「試合規定」、「組み方」などの説明及び練習を行います。
(裏面へ続く)

【 7 月 27 日(日)】

9:00～	自由練習(6階:学校道場)
10:00～	開会式
10:15～	試合開始
12:30	閉会式 (表彰式)

実施種目 1. 体重階級別個人戦 (男女別)

男子 -70kg -81kg -95kg +95kg

女子 -52kg -60kg -70kg +70kg

*参加者数により体重区分を考慮する。

2. 団体戦

参加者数によりチーム分け、試合方法を検討する。

計 量 予備計量は何回でもできるが、本計量は1回のみの計量。

場所: 男・女別 (6階:学校道場控室または、学校道場)

抽 選 7 月 26 日(土)

場所 6階:学校道場(公開)

時間 14:30～14:45

抽選後、対戦表は、集計後学校道場に貼り出します。

試合方法 ・エントリー数が5名以下は、リーグ戦を行う。

・エントリー数が6名以上は、トーナメント戦を行う。

・人数が少ない場合は、体重階級等を変更して行う。

競技規則 別紙競技規則によって行う。

選手選考 この大会の成績等を強化指定選手選考の参考にする。

柔道衣 国際柔道連盟及び公益財団法人全日本柔道連盟の規定に基づく白色の柔道着(帯及びゼッケンを含む)を着用すること。ただし、本大会では従来の柔道着でも可とする。尚、中学生は、ゼッケンの下の方に黄色のライン(幅2センチ)を取り付けること。(テープは事務局側で用意します。)

春 日

〇〇盲学校

申込締切 2025 年 6 月 27 日(金)までに参加申込書・誓約書を下記事務局へ郵送または、メール添付で返信すること。

申込先 〒112-0003 東京都文京区春日1-16-30 講道館本館 4 階
NPO法人日本視覚障害者柔道連盟事務局

TEL 03-3811-5800/ FAX 03-3811-5801

メールアドレス:judob@joy.ocn.ne.jp

第18回 全国視覚障害者学生柔道大会 競技規則

1 審判規定について

IJF(国際柔道連盟)審判規定、IBSA(国際視覚障害者スポーツ連盟)柔道審判規定及び大会申し合わせ事項によって行う。

2 予め定める事項

(1)試合時間

個人戦は4分とする。引き分けになった場合は、ゴールデンスコア方式の延長戦を行う。団体戦は3分とする。引き分けになった場合でも延長戦は行わない。

(2)優勢勝ちの判定基準

①個人試合

「技有」以上とする。ただし、試合終了のとき、スコアが同等の場合は、「指導」の有無にかかわらず、ゴールデンスコア方式の延長戦を行う。延長戦に入る前に与えられたスコア並びに「指導」は引き続き反映され、スコアの獲得又は直接的か「指導」の累積による「反則負け」によってのみ勝敗を決める。

②団体試合

「技有」以上とする。ただし、試合終了のとき、スコアが同等の場合は引き分けとする。

(3)競技方法

①個人試合

ア リーグ戦を行う

イ 予選リーグ戦及び決勝リーグ戦の得点の内容を検討する場合は、「一本」勝ち、「技有」優勢勝ちの差を付ける。順位決定の順番は、勝ちの内容を見る。それでも同じ場合は、負けの内容を見る。それでも同じ場合は、直接対決の内容を見て順位を決定する。

ウ エントリー数2名の時は、3回試合をし、先に2勝した方を勝ちとする。

*連続で2勝した場合は、3回目の試合は行わない。

②団体試合

ア 基本的には、各都道府県対戦とするが、参加人数によって試合方法を検討する。

イ 試合方法は、参加人数によって、リーグ戦:トーナメント戦を行う。

ウ 勝敗は、勝ち数の多いチームを勝ちとする。勝ち数が同数の時は、高いポイントを多く取ったチームを勝ちとする。勝ち数もポイント数も同じときには自由選出の代表者による決定戦を行う。決定戦は3分間とし、引き分けになった場合はゴールデンスコア方式を適用する。

エ 参加者が2人のチームは、先鋒と中堅に選手を配置し、大將は空位とする。

3 申し合わせ事項

- (1) 試合では、原則として審判は J1 選手を誘導する。
*以下、(2)～(4)については、指導の対象となる。
- (2) 組み方で、組み直しをする。
- (3) 組み方で、足の位置が自然本体にならないとき。
- (4) 柔道衣がはだけて、もとに直そうとしないまま開始線に戻ったとき
- (5) 中学生と対戦するときは、「関節技」、「絞め技」を禁止する。

4 IJF 審判規定に対する付則

第1条 試合場

試合開始及び終了時の位置を示すために、幅10cm、長さ50cmの、粘着性の青と白のテープを試合場内の中央、150cm離れた場所に貼り付ける。(主審の右側に白テープ、左側に青テープとする)

第3条 服装(柔道衣)

国際柔道連盟及び公益財団法人全日本柔道連盟の新規定に基づく白色の柔道衣(帯及びゼッケンを含む)を着用すること。ただし、本大会では従来の柔道着でも可とする。

J1(全盲 視力が 0.0025 より悪い)に該当する選手は全員、直径7cmの赤い円形マークを柔道衣両袖の外側に縫いつける。円の中央は肩から約15cmのところにくるようにする。

また、選手が視覚聴覚障害者の場合は、柔道衣両袖の赤マークの下側に、直径7cmの黄色の円形マークを縫いつける。(赤マークと黄色のマークが縦に並ぶように縫い付けする)。

第15条付則 試合開始(抜粋)

- ・主審は、J1の選手を開始線へ誘導する。
- ・主審が「礼」を宣言し、この宣言により選手は礼をする。主審は選手に基本の組み方を取らせる。
- ・主審は、組み方がつかむだけで試合開始では無い事を確認する。
- ・主審は試合再開のその都度、対戦者同士を向け合せて片手を相手の柔道衣の袖(袖口から肩の先の間)に、もう片手は反対側の襟(鎖骨から胸骨の間)を軽くつかんでいることを確認しなくてはならない。
- ・2人の選手は主審による始めの合図の後のみ、動く事が許される。

注意:(1)選手は「始め」の合図がなされるまで、両手とも離してはいけない。

(2)組み合えないときは、白の選手が先に「組み方」でつかみ、その後に青の選手が「組み方」でつかむ。なお、次に「待て」の宣告があつて組む場合は、青が先、次は白が先という具合に、先に組む選手を交互に入れ替えて行う。

第17条付則 「待て」の適用

試合中、両者が離れたときは「待て」の宣告をする。

第27条付則 (禁止行為と罰則)

「指導の対象」

- (1) 障害の程度に関係なく、攻撃の意思が認められず、組み方から片手もしくは両手を離す場合。
- (2) 障害の程度に関係なく、故意に場外に出る場合。